



ADRC Highlights

Vol.76

Asian Disaster Reduction Center Biweekly News

August 16, 2003

宮城県北部連続地震でADRCが調査ミッション実施

上記地震による被害実態把握等のため、2003年7月31日から8月1日の2日間、ADRCが調査ミッションを実施しました。このミッションに加わったのは、羽鳥主任研究員、遅野井研究員、河内研究員、ピラボン・シソムバン客員研究員(ラオス)、ラッフマン・ソバルナ客員研究員(インドネシア)の5名でした。この視察結果の概要報告は次のとおりです。

現地被害調査報告

7月26日土曜日、東北地方は一連の激しい揺れを伴った地震に襲われました。午前0時13分に宮城県北部(震源:北緯38.4度,東経141.2度、震源の深さ12km)した前震はマグニチュード5.5を観測し、それから7時間後の午前7時13分に発生した2回目の地震(本震、震源:北緯38.4度,東経141.2度、震源の深さ12km)では、マグニチュード6.2を記録しました。その後、余震は幾度にもわたって発生し、そのうちの午後4時56分に発生した最大余震のもの(震源:北緯38.5度,東経141.2度、震源の深さ10km)はマグニチュード5.4を観測しました。前震時に鳴瀬町で観測された最大加速度は2005ガル(東西方向)で、気象庁観測史上、最高値記録を更新するものでした。



宮城県では、地震による大きな被害を受けました。宮城県庁危機対策課によると、5,801家屋が損傷し、73家屋が全壊しました。発生翌日の7月27日時点では、2,800名が避難し、また569名の負傷者が出たと報告されました。なお、負傷者のほとんどは軽傷で、死者はいませんでした。

この地震により地滑りと液状化が起こりました。また、最近の台風10号による豪雨は、状況をより深刻なものにしています。自衛隊員600名が被災地に派遣され、瓦礫を取り除いたり、飲料水を住民に供給したりして救援活動を行いました。



宮城県では、2ヶ月前の5月26日にもマグニチュード7.0を記録した地震が発生し、負傷者数100名以上、

また歴史的な遺産にも大きな影響を与えたばかりでした。宮城県庁によると、この一連の地震によるこの地域の農業や漁業への損失額は、最低でも1億2000万円とのことです。この件についての詳細は、羽鳥(hatori@adrc.or.jp)、または河内(kochi@adrc.or.jp)までお願いします。

ラオス人客員研究員シソムバン氏(ラオス国政府防災担当官)による私見

今回の訪問は、日本で発生した地震直後の被災地を直接視察するという大変貴重な機会となりました。1日目は、ボランティアセンターとなっている矢本町社会福祉センターにて、ガレキ撤去手伝いのためのボランティアの幹旋の様子を視察し、問題点など聞き取り調査を行いました。続いての歩きながらの調査では、被害を受けた家屋のほとんどが脆弱な資材で作られていることが判りました。多くの壁が崩壊し、道路が陥没しているのも確認でき、また鳴瀬町東寄り山麓近くでは墓石の倒壊方向で地震の揺れの方向も判りました。2日目には、避難所となった南郷町立中学校を訪問し、自衛隊の仮設テントなどを視察しました。

今回の調査ミッションに参加して感じたことは、このような災害に対する日本政府の対応は、迅速にかつ適切に行われているということでした。一時避難所・医療所の開設や食料品の供給は組織的にスムーズに進められていました。また、復旧段階における住民の精力的な行動、活発なボランティア活動も印象的でした。

ラオスの防災担当行政官として、日本の地滑り防止技術などの災害対策を学べた今回の経験を糧に、帰国後の母国の防災行政の推進に役立てたいと思います。

アジア最新災害情報: ネパールの洪水と土砂崩れ

モンスーンシーズンの到来と共に、洪水や土砂崩れが発生し、ネパール人口の3分の2の人々が影響を受けています。2003年8月4日現在、内務省防災局の発表によると、洪水と土砂災害により死者130名、行方不明者45名、負傷者69名となっています。また、1,475家屋が全壊し、3,281家族が影響を受けています。

とりわけ、国内の幹線道路が大きな被害を受け、なかでも首都・ナラヤンガ間の幹線では、ナラヤンガ・ムグリン区域にある30メートルの橋が押し流されました。またトリブバンとプリシ間の幹線道路では、土砂を取り除くなど、懸命な復旧活動が続けられています。マックワンプー地区では、3日間の豪雨により、マヘンドラハイウェイの多くの箇所土砂崩れが発生し、交通が麻痺しています。こうした被害は、他の地区でも50以上の箇所でも起きています。

ご意見・ご要望等があれば
右記までご連絡ください。

編集・発行: Asian Disaster Reduction Center(アジア防災センター)

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 ひと未来館5F

E-mail: editor@adrc.or.jp TEL: 078(230)5540 FAX: 078(230)5546

誌代・送料: 無料 / 毎月2回発行(予定)